

村上善男と東北

東北を拠点に精力的に活動を続けた美術家・村上善男。
村上は、教育者、研究者、デザイナー、そして椽木弘の名を用い、詩人の顔も持つ人でした。
鬼籍に入ってから20年の時が経とうとする2026年、青森県青森市、弘前市、岩手県岩手町、盛岡市、花巻市、宮城県仙台市、そして埼玉県さいたま市で、村上善男の作品を紹介する展覧会が開催されます。
共同開催ではなく、同時多発的に計画が持ちあがった企画展です。それぞれの土地が持つ風土性と深く関わっている村上の作品世界。展覧会をめぐり、街に残る村上イズムを辿ってみませんか。

弘前大学教職時代 1982-2004 青森県・弘前市

弘前大学教育学部教授就任に伴い拠点を弘前に移した村上善男は、津軽風の裏打ちに使われていた古文書を画面に貼りつけ、点を打ち線で結ぶ「釘打ちシリーズ」を構想します。作品のタイトルには津軽の地名が現れ、作品のモチーフには弘前市の市章「𪛇(まんじ)」も用いられます。

弘前市をめぐると、看板やマンホールの蓋に刻まれた「𪛇」を目にすることが出来ます。また、「城西大橋」や「弘前大学創立50周年記念会館ステンドグラス」は村上がデザインを手掛けました。弘前大学近くの「カフェ・ホートン」は行きつけの店でした。

岩手第一中学校教職時代 1957-1961 岩手県・岩手町

岩手町立岩手第一中学校（現・沼宮内中学校）に教諭として配属、地元の画家・齋藤忠誠らと図り、岩手町在住者を主体として「エコール・ド・エヌ」を結成しました。60年からは工業製品をポリエステルで固めたアッサンプラージュによる「注射針シリーズ」「計測シリーズ」を展開します。高校の美術教諭として転動する61年に「エコール・ド・エヌ」を退会しました。

幼少期・学生時代 盛岡市立高等学校教職時代 1933-54, 1961-68 岩手県・盛岡市

盛岡に生まれた村上は、岩手大学学芸学部国語科乙一類在学中、二科展に初入選。大学修了後に、花巻、岩手町で教職につき、61年3月、美術教諭として盛岡市立高等学校へ赴任しました。翌62年、詩人・高橋昭八郎に呼びかけ「一人の詩人、八人の画家と一人の芸術家、舞踊家による盛岡四月八日の日曜日」と題するショーを開催、このときの参加者の大宮政郎、柵山龍司らと共に「集団N39」を結成しました。

盛岡駅前の地下道には村上が手掛けた陶板壁画《四季の図譜》があるほか、市内には、店名ロゴを担当した「和かな」、当時と場所・経営者は異なりますが若き日に集った「モンタン」などの飲食店があります。

湯本中学校教職時代 湯本アトリエ時代 1954-57, 2004-06 岩手県・花巻市

大学修了後、村上は、教諭として花巻市立湯本中学校へ着任。翌年の第40回二科展に出品した《ヴァグースQ》が岡本太郎の目にとまり、この年新たに設けられた二科九室「太郎部屋」に展示され、岡本との交流が始まりました。また、2004年、弘前から盛岡に戻った後は、アトリエを花巻に設け制作しました。

三島学園女子大学教職時代 1968-1982 宮城県・仙台市

村上は、大学に職を得て仙台へ転居し、1970年から、天気図に数字や記号を取り入れた「気象シリーズ」に着手します。続く「貨車シリーズ」では、貨車記号が作品に取り入れられるようになりました。

仙石線本塩釜駅には陶板壁画《風》が残ります。今回展覧会が開催される、SARP 仙台アーティストランプレイスは、かつて村上作品をはじめとする現代版画を扱っていた「ギャラリー青城」(1975-2020/画廊主:高橋眞)でした。



会場一覧
※開館時間、休館日、観覧料金等の詳細は、各会場の公式サイトほかでお確かめください

● 青森県立美術館 4月18日(土)―6月21日(日) コレクション展2026-1より 「カンサス・シティは𪛇街 ―村上善男」



《作品'65-X》1965年
青森県立美術館蔵

例えばビートルズによる1965年のカバー曲『KANSAS CITY』レコード、爆竹、釘、裏返した古文書。物質と記憶へのアプローチをヒントに、村上作品の魅力を紹介します。

青森県青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000

● 弘前市立百石町展示館 5月2日(土)―5月5日(火・祝) 「没後20年 村上善男展」

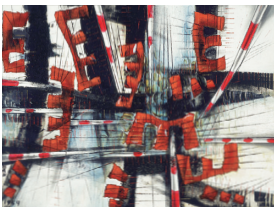


《𪛇町(品川町)に釘打ち》1985年
個人蔵

弘前時代の作品と版画を中心に構成。
※入場無料・会期中無休

青森県弘前市大字百石町3-2
TEL.0172-31-7600
問い合わせ先：
実行委員長・鎌田
(090-6680-1928)

● 石神の丘美術館 4月18日(土)―6月7日(日) 「コレクション+VOL.2 没後20年 村上善男展」



《トボロジー 4》1959年
石神の丘美術館蔵

岩手町と関わりのあった1950年代後半の作品を、村上が語った言葉とともに展示します。あわせて版画作品をご紹介します。

岩手県岩手郡岩手町大字五日市10-121-21
TEL.0195-62-1453

● 岩手県立美術館 5月1日(金)―7月12日(日) 「コレクション展第1期 特集：没後20年 村上善男」



《頻度n-(2)》1963年
岩手県立美術館蔵

盛岡時代の作品を中心として、初期から晩年までの画業をご覧ください。

岩手県盛岡市本宮字松幅12-3
TEL.019-658-1711

● 萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー 4月25日(土)―6月28日(日) 「没後20年 村上善男と花巻展」

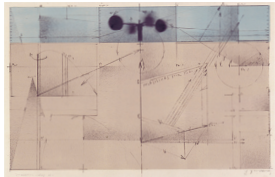


《ヴァグースQ》1955年
萬鉄五郎記念美術館蔵

村上が美術家としてスタートした土地であり、最晩年の制作の場でもあった「花巻」での活動に焦点をあて、その画業を振り返ります。
※入場無料

岩手県花巻市東和町土沢5-135
TEL.0198-42-4402

● SARP 仙台アーティストランプレイス 7月7日(火)―7月12日(日) 「仙台時代の村上善男 II ―先生として、美術家として―」



《モンスーン h》1977年
個人蔵

仙台時代の村上の仕事の思い起こす手がかりとなる構成。
※入場無料・会期中無休

宮城県仙台市青葉区錦町1-12-7
門脇ビル1F
TEL.022-222-0654
問い合わせ先：
SARP併設喫茶frame
(070-6510-5023)

● 埼玉県立近代美術館 2月7日(土)―5月10日(日) 「コレクションの舞台裏―光をあてる、掘りおこす。収蔵品をめぐる7つの試み」より「点を打つ―村上善男の美術と研究」



《鯉ヶ沢湾上独双六》1986年
埼玉県立近代美術館蔵

館蔵品を起点として、1970年代以降の村上の執筆活動や制作をご紹介します。

埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL.048-824-0111

